

エコアクション21 環境活動レポート



対象期間：2018年1月～2018年6月
(2017年度)

発行日：2018年 8月 28日

黒木コンポジット株式会社

目次

1.環境方針

2.事業活動内容

(1)会社概要

(2)体制図

3.環境目標及び実績

(1)環境目標 (中期)

(2)2017 年度実績 (試行運用期間：6 ヶ月間)

4. 環境活動計画及び評価

(1)環境活動内容と取り組みの評価

(2)次年度の環境活動計画

(3)実施状況

5.環境関連法規への違反、訴訟等の有無

6.代表者による全体評価と見直しの結果

1. 環境方針

《基本理念》

黒木コンポジット株式会社は、地球環境改善を重要な課題と位置づけ、HIP 処理 電子ビーム溶接 機械加工の事業活動を通じて生産における環境への配慮を行うと共に、環境経営システムを構築・運用することにより、継続的かつ着実に環境保全活動を行い次世代に継承出来る環境の実現を目指します。

《行動指針》

環境経営システムを構築・運用し、環境関連法規等を遵守するとともに環境負荷低減に努めます。
以下の行動指針に基づき、環境目標及び活動計画を定め、定期的な見直しを行い、継続性のある活動を展開します。

①二酸化炭素の排出を削減します。

(効率的なエネルギー使用を推進します。)

②廃棄物の削減

(分別を徹底しリサイクル率の向上に努めます。)

③水使用量の削減

(節水に努め、水使用量を削減します。)

④使用する化学物質の削減に努めます。

⑤事業活動に関連する効率アップ及びグリーン購入を推進し環境負荷低減に努めます。

⑥関連する環境関連法規や条例等を遵守します。

⑦全従業員が改善活動の意義を理解し積極的に実践できるように方針を周知します。

⑧この環境方針は広く一般に公表します。

制定日 2017年12月1日

黒木コンポジット株式会社

代表取締役社長 黒木 亜矢子

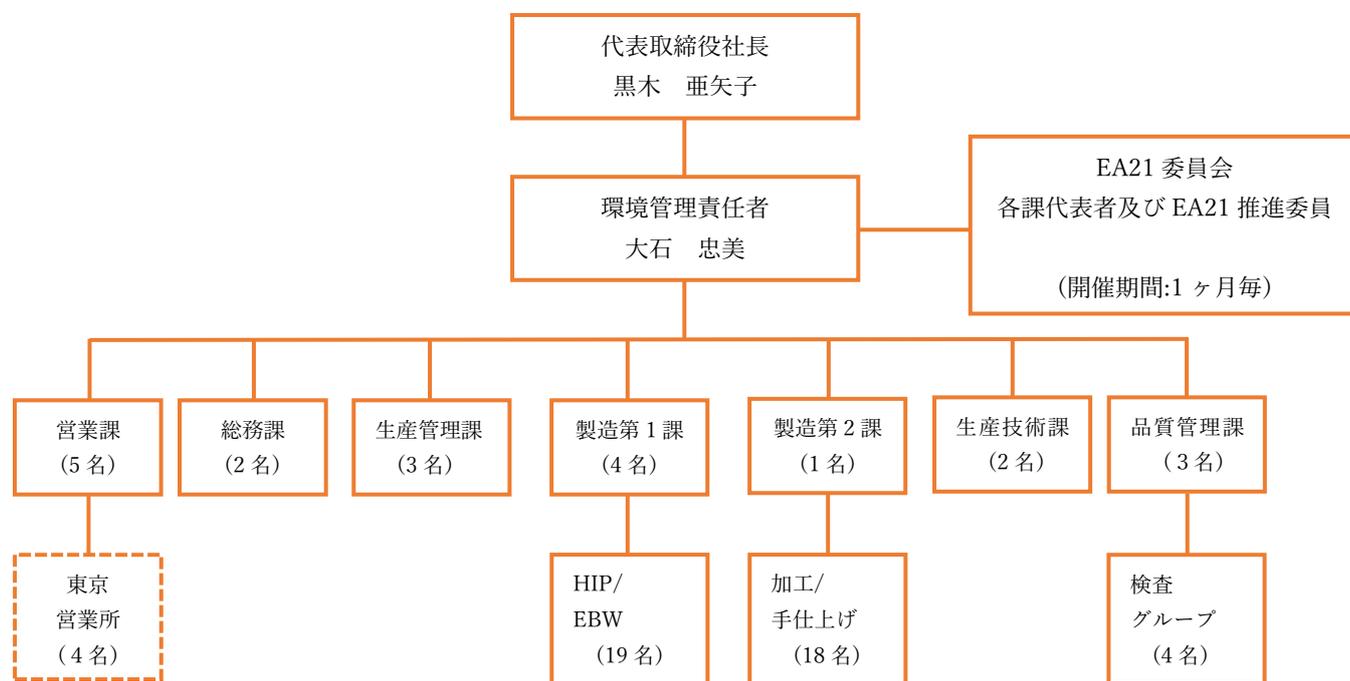
2. 事業活動内容

(1) 会社概要

- 事業所名 黒木コンポジット株式会社
- 代表者名・・・・・・・・・・・・・・・・黒木 亜矢子 (代表取締役社長)
- 所在地 (本社・工場)・・・・・・・・福岡県鞍手郡鞍手町大字古門字兵丹 3109 番地の 9
(東京営業所)・・・・・・・・東京都大田区東蒲田 2-30-17 サンユウ東蒲田ビル 9F
- 法人設立年月日・・・・・・・・・・・・1986 年 10 月(昭和 61 年)設立
- 資本金・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4,000 万円(2010 年 3 月現在)
- 環境管理責任者・・・・・・・・・・・・大石 忠美 (工場長)
- 連絡担当者・・・・・・・・・・・・・・野村 未浦子 (品質管理課)
- 連絡先
- 本社工場・・・・・・・・・・・・・・・・・・TEL:0949-42-3301
FAX:0949-42-2390
- 東京営業所・・・・・・・・・・・・・・・・・・TEL:03-5713-3774
FAX:03-5713-2777
- E-mail 本社工場・・・・・・・・・・・・compo@Kuroki.co.jp
- ホームページ・・・・・・・・・・・・・・http://kuroki.co.jp/composit/
- 事業の内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・HIP(熱間等方圧加圧) EBW(電子ビーム溶接)
及び機械加工を使用した複合金属部品の製造
- 事業規模・・・・・・・・・・・・・・・・・・売上高 (百万円) : 1,194 (2016 年度実績)
従業員数 : 71 名 (2018/10/1 時点)
事業所面積 : 3,223 m²
- 当社の事業年度・・・・・・・・・・・・10 月 1 日～翌年 9 月 30 日
- 認証登録範囲・・・・・・・・・・・・・・対象事業所 : 本社・工場
(※東京営業所は 2022 年に拡大する)
対象事業活動 : 全事業活動
対象者 : 全従業員 (パート/派遣社員含む)

2. 事業活動内容

(1) 体制図



「2022年に拡大」

2018年8月27日 現在

氏名	所属 (役職)	役割・責任・権限・使命
黒木 亜矢子	代表者 (代表取締役社長)	全体の統括、環境方針の設定、環境への取組を実施する為の全体の評価と準備。
大石 忠美	環境管理責任者 (工場長)	組織全体の把握及び、環境経営システムの構築・運用。構築・運用に関する情報の社長への報告。
EA21 推進委員	EA21 事務局	EA21 文書及び記録類の作成・維持・管理
野田 健一	総務課 (課長代理)	外部窓口、水使用量の管理、グリーン購入推進
原田 潤一	品質管理課 (課長)	製品不良率削減の管理、化学物質使用量の管理
窪田 裕之	製造第1課 (課長)	電力使用量の管理、廃棄物排出量の管理
熊井 孝二	製造第2課 (課長)	化学物質使用量の管理
入江 誼	生産管理課 (課長)	全サポート
中島 求	生産技術課 (課長)	地域貢献
高宮 利幸	営業課 (課長)	車燃料(ガソリン、軽油)消費量管理

3. 環境目標及び実績

(1) 環境目標 (中期)

中期目標は、2016年度(31期)の実績を踏まえ、

2017年度～2019年度までの環境目標を次のように定め、環境負荷低減に取り組んでいきます。

環境目標	単位	2016年度 2016年10月 ～2017年9月 (31期)	2017年度 2017年10月 ～2018年9月 (32期)	2018年度 2018年10月 ～2019年9月 (33期)	2019年度 2019年10月 ～2020年9月 (34期)	
		基準年度	目標 (1%削減) ^{※1}	目標 (2%削減)	目標 (3%削減)	
1	二酸化炭素排出量 ^{※2}	Kg-CO2	1,392,385	1,654,153	1,828,479	1,904,364
2	廃棄物総排出量	Kg	25,344	30,108	33,281	34,663
3	水使用量	m ³	5,082	6,037	6,674	6,951
4	化学物質使用量 ^{※3}	Kg	1,125	1,337	1,477	1,539
5	製品不良率 ^{※4} (生産性の向上)	%	2.90	2.87	2.84	2.81
6	グリーン購入の推進	実施件数	0	10	15	20
7	会社周辺の清掃	実施件数	0	1	2	2

※1 各年度の目標削減量は基準年度から1%毎削減

算出方法: 基準年度(31期)の売上金額をもとに32期以降の売上予測から売上補正係数は以下の通りとなり、
(売上補正係数→32期:1.20 33期:1.34 34期:1.41)

基準年度に各期の補正係数をかけた後、各期の削減率を引いたものが上記項目の目標数値となります。

※2 CO2 排出係数(購入電力): 2016年度→0.462(kg-CO2/kWh) 2017～2019年度→0.462(kg-CO2/kWh)

※3 化学物質: ジクロロメタン

※4 受注件数に対する不良品の割合

3. 環境目標及び実績

(2) 2017 年度実績 (試行運用期間: 6 ヶ月)

環境目標	単位	2016 年度 (31 期)	2017 年度 (32 期) (2018 年 1 月～6 月)		
		基準年度	目標 (1%削減) ^{※1}	実績	達成率
1 二酸化炭素排出量 ^{※2}	Kg-CO2	1,392,385	827,076	712,975	114%
2 廃棄物総排出量	Kg	25,344	15,054	8,694	142%
3 水使用量	m ³	5,082	3,019	2,393	121%
4 化学物質使用量 ^{※3}	Kg	1,125	668	500	125%
5 製品不良率 ^{※4} (生産性の向上)	%	2.90	2.87	1.29	155%
6 グリーン購入の推進	実施件数	0	5	42	840%
7 会社周辺の清掃	実施件数	0	1	1	100%

※1 17 年度の目標削減量は基準年度から 1%毎削減

算出方法: 基準年度(31 期)の売上金額をもとに 32 期以降の売上予測から売上補正係数は以下の通りとなり、
(売上補正係数→32 期: 1.20)

基準年度に補正係数をかけた後、削減率(1%)を引いたものが、17 年度の目標値となる。

試行期間が 6 ヶ月(半年)の為、17 年度目標値を 2 で割ったものを目標値とする。

※2 CO2 排出係数(購入電力): 2016 年度→0.462(kg-CO2/kWh) 2017 年度→0.462(kg-CO2/kWh)

※3 化学物質: ジクロロメタン

※4 受注件数に対する不良品の割合

4. 環境活動計画及び評価

(1) 環境活動内容と取り組みの評価

1. 二酸化炭素排出量の1%削減

取組事項	活動項目	責任者	活動内容			
			10～12月	1～3月	4～6月	7～9月
電力使用量の削減	エアコン設定温度を時期に合わせて設定	製造課長	—	(22℃) 継続実施	(22℃/26℃) 継続実施	
	昼休みの消灯 (必要最小限の点灯)	作業長	—	実施	実施	
	夜勤・残業時の不要な照明の消灯	作業長	—	実施	実施	
	デマンド監視抑制装置の管理・活用	品質管理課長	—	実施	実施	
	LED照明導入の検討	工場長	—	導入承認	導入完了	
ガソリン・軽油使用量の削減	タイヤの定期点検	営業課長	—	各月実施	各月実施	
	省エネ車の導入	営業課長	—	2017年導入 (1台)	1台増設	
取組の評価			導入設備は省エネ性の向上に重点をおき選定した。 また、エアコン温度管理を継続することで、節電対策は効果を発揮している			

2. 廃棄物総排出量の1%削減

取組事項	活動項目	責任者	活動内容			
			10～12月	1～3月	4～6月	7～9月
廃棄物排出量の削減	廃棄物排出量の削減	製造課長	—	各自実施	各自実施	
	リサイクルの実施	管理課長	—	内容検討	鞍手町、他社 取組の調査	
取組の評価			一般廃棄物は活動の効果もあり、排出量が削減できている。			

3. 水使用量の1%削減

取組事項	活動項目	責任者	活動内容			
			10～12月	1～3月	4～6月	7～9月
節水活動	節水の励行	工場長	—	各自実施	各自実施	
	節水コマの検討と導入	管理課長	—	取引業者選定	取引業者の選定を依頼	
取組の評価			各自の取組により節水効果が出ている			

4. 化学物質使用量の1%削減

取組事項	活動項目	責任者	活動内容			
			10～12月	1～3月	4～6月	7～9月
化学物質使用量の削減	有機溶剤による洗浄のルール化	品質管理課長	—	各自実施	活動継続中	
	工場内での最低限保管を実施	製造課長	—	各工場で保管場所・数量を指定	活動継続中	
	使用量の削減	製造課長	—	1回当りの購入量削減を実施	活動継続中	
取組の評価			施工量が増えている中、出来るだけ最少の使用で洗浄等を実施した効果が出ている			

5. 製品不良率 1%削減

取組事項	活動項目	責任者	活動内容			
			10～12月	1～3月	4～6月	7～9月
不適合製品の削減	不良発生状況の把握 /改善会議の開催	製造課長	—	品質会議にて不良発生状況を報告。対策を検討。	活動継続中	
	不良件数の削減	品質管理課長	—	現場不適合対策会議にて関係者への周知を実施	活動継続中	
取組の評価			ヒューマンエラー件数は昨年度と比較すると減少しており、効果が出ている。			

6. グリーン購入の推進

取組事項	活動項目	責任者	活動内容			
			10～12月	1～3月	4～6月	7～9月
グリーン購入の実践	グリーン購入法特定調達品の購入	管理課長	—	ボールペンは替え芯等に する事で貢献	活動継続中	
取組の評価			以前から、総務課が詰替えタイプの文具を購入している効果が見える形となった。			

4. 環境活動計画及び評価

(2) 次年度の環境活動計画

1. 二酸化炭素排出量の削減

取組事項	活動項目	
	2018 年度 2018 年 7 月～9 月	2018 年度 2018 年 10 月～2019 年 9 月
電力使用量の削減	エアコン設定温度を時期に合わせて設定	(継続)
	昼休みの消灯 (必要最小限の点灯)	(継続)
	夜勤・残業時の不要な照明の消灯	(継続)
	デマンド監視抑制装置の管理・活用	(継続)
	LED 照明導入の検討	生産効率向上
	—	環境配慮製品の製造量増加
	—	不適合品の削減
ガソリン・ 軽油使用量の削減	タイヤの定期点検	(継続)
	省エネ車の導入	エコ運転の推奨

2. 廃棄物総排出量の削減

取組事項	活動項目	
	2018 年度 2018 年 7 月～9 月	2018 年度 2018 年 10 月～2019 年 9 月
廃棄物排出量の 削減	廃棄物排出量の削減	分別の実施
	リサイクルの実施	工具再利用の推進
	—	廃棄物から有価物への検討
	—	不適合品の削減

3. 水使用量の削減

取組事項	活動項目	
	2018年度 2018年7月～9月	2018年度 2018年10月～2019年9月
節水活動	節水の励行	(継続)

4. 化学物質使用量の削減

取組事項	活動項目	
	2018年度 2018年7月～9月	2018年度 2018年10月～2019年9月
化学物質使用の 適正管理	有機溶剤による洗浄のルール化	配置場所の徹底
	工場内での最低限保管を実施	使用量の管理
	使用量の削減	—
	有機溶剤による洗浄のルール化	—

5. 製品不良率の削減

取組事項	活動項目	
	2018年度 2018年7月～9月	2018年度 2018年10月～2019年9月
不適合製品の削減	不良発生状況の把握 /改善会議の開催	(継続)
	不良件数の削減	(継続)

6. グリーン購入の推進

取組事項	活動項目	
	2018年度 2018年7月～9月	2018年度 2018年10月～2019年9月
グリーン購入の 実践	グリーン購入法特定調達品の購入	(継続)

4. 環境活動計画及び評価

(3) 実施状況

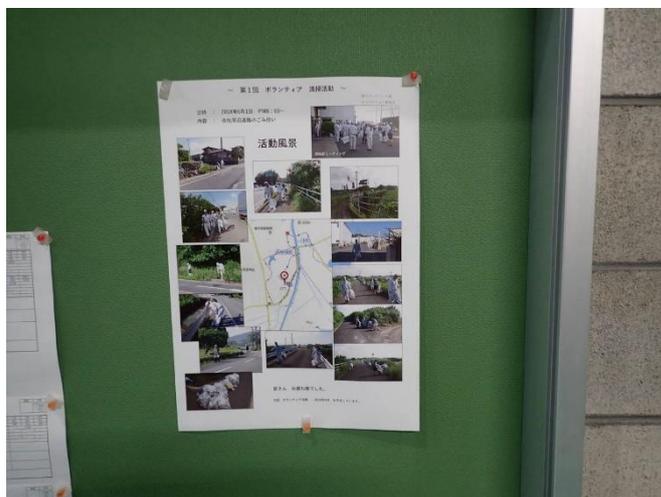
◎エコアクション委員会の実施

毎月、各部署より選出されたエコアクション委員を招集し「エコアクション委員会」を実施。
電力使用量、ガソリン使用量などのデータをもとに毎月の活動の振り返りと今後の活動について、エコアクション委員を中心に協議を実施。



◎環境掲示板の設置

活動内容及びエコアクション委員会での会議内容の掲示を実施。
社員全員の目に届く場所に掲示することで、周知徹底を図っています。



◎防災訓練の実施

緊急時に備え適時、消火器の使用法などの講習会を実施。



◎エアコンの定期清掃及び設定温度の指示

環境に配慮し、夏季・冬季でのエアコンの設定温度を各装置に明記。

設定温度を夏季は、26℃、冬季は22℃に設定。また、毎月エアコンフィルターの清掃を実施。



H30 1月	25日	H31 1月	日
H 2月	日	H 2月	日
H 3月	1日	H 3月	日
H 4月	27日	H 4月	日
H 5月	7日	H 5月	日
H 6月	17日	H 6月	日
H 7月	19日	H 7月	日
H 8月	日	H 8月	日
H 9月	日	H 9月	日
H 10月	日	H 10月	日
H 11月	日	H 11月	日
H 12月	日	H 12月	日

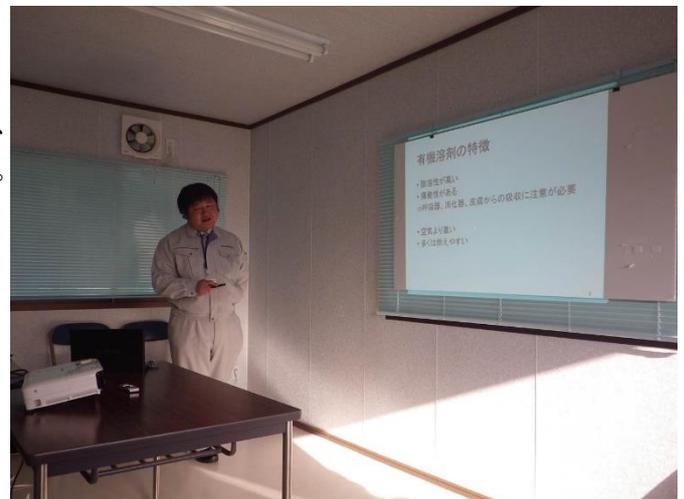
◎節電の呼びかけ

各所の照明スイッチ付近に節電の呼びかけを掲示。
電力消費削減の啓蒙を図ります。



◎有機溶剤安全講話の実施

弊社では日常的に作業現場にて、洗浄作業等で有機溶剤を使用します。
適宜、専門家の講師を招き安全講話を実施することで、有機溶剤の取り扱いについて注意喚起を行っています。



◎ボランティア活動の実施

弊社では、本社工場周辺の地域清掃活動を定期的に行っております。



5.環境関連法規への違反、訴訟等の有無

(1) 違反、訴訟等

- ・関連法規制の違反はありませんでした。
- ・関係機関等からの指摘等も無く、訴訟等も1件もありませんでした。

6. 経営者による全体評価と見直しの結果

まず、システムの新規立上げまで至ったことは、全社一体となった取り組みの成果と評価します。活動も、全社目標を持って活動した結果、概ね良好です。

生産量増加を加味した上で、電力使用量、二酸化炭素排出量、廃棄物総排出量がいずれも抑制できています。化学物質使用量の節約活動や、総務による節電ポスター掲示も、実際の効果につながっています。

今後も地球環境への配慮に努めて活動してください。